

第6章 子どもの誤飲防止のための方策について

本研究においては子どもの行動特性、医薬品以外でのCRの例や海外での医薬品包装に関する規制について調査を行うとともに、実際に医療用医薬品を使用して、PTP包装に対して力学開封強度の測定を行った。これは、消費者安全調査委員会において行われた試験が実験用に作成されたPTP包装を使用したものであることから、そこで示された数値が実際の医薬品のPTP包装での値とどのような関係にあるのかを調査するためである。また、医療用医薬品においても一部の医薬品は製薬企業が子どもの誤飲対策を実施したことを謳っているものが存在することから、これらについても力学開封強度の測定を行った。ここから得られた開封強度は消費者安全調査委員会で示された値に比べ極めて低い値であった。我が国において発売されているCR対応PTP（欧米の規格に適合したもの）についても同様の試験を行ったところ、最大のもので60Nを下回っており、これらのCR対策品であっても消費者安全調査委員会で示された値を全体としては大きく下回っていることが明らかになった。

さて、2014年にデュッセルドルフで開催されたInterPack2014において、子どもの誤飲防止対策が実施されたPTP包装として展示されていたものを図1に示す。これは3.2.1や参考14で示されたものとは異なる構造であるが、1シートあたりのコストは20セント(ユーロ)程度であるとの情報であった。また、図2もInterPack2014で展示されていたものであるが、これは参考15と同様の対応と考えられる。これらはいずれも製薬企業が製造段階で対応する形でのCR対策である。



図1 CRSF対応PTPシート（下図はシートをめくった様子）

